

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1272800267		
法人名	医療法人明星会		
事業所名	グループホームまきの家		
所在地	〒296-0044 千葉県鴨川市広場 1665番地 (電話) 0470 - 98 - 3211		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4 - 4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年10月15日	評価確定日	平成21年2月17日

【情報提供票より】(20年9月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤16人, 非常勤3人, 常勤換算	17.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000円	その他	食費45,000円, 水道光熱費19,000円, おむつ代(パンツ式160円, パット30円, おむつ120円)理美容・レク費用実費	
保証金の有無(入居一時金含む)	入居金 有(180,000円)	有りの場合償却の有無	有り:2年償却(但し退居時の居室現状復帰に充当し清算すること有り)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	650 円	おやつ	円
	1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	76 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東条病院 東条メンタルホスピタル 鴨川市立国保病院歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院を母体とする当ホームは、JR安房鴨川駅から、徒歩20分あまりの静かな場所にある。母体法人は、デイサービス、居宅介護支援事業、訪問看護を行って関係市町村、地域の保険、医療、福祉サービスとの連携を図っている。自己評価及び外部評価では、改善計画シートを活用して、目に見える形での成果を上げている。職員は、自主勉強を積極的に行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。入居者と家族のホームに寄せる信頼は厚い。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価に対し、改善計画を作成して取り組んだ結果、居室については、安全第一をモットーに家族と話し合い、居心地よく過ごせるような工夫を取り入れた。同業者との交流に関しては、母体法人で行っている「老人性認知症センター」に参加し、他事業者との関わりを持つようにした。地域との関わりについては、家族アンケートを実施したが、まだそのデータを活かした取組みをするには至っていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	介護支援専門員・幹部・現場職員は、前向きに自己評価に取り組み、改善課題についてはできるところから取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、老人クラブ地区分会長、地域包括支援センター長、入居者家族、ホーム職員らが参加して2ヶ月に1回開催している。運営委員の中に包括支援センター長が参加しているため、認知症サポーター制度等認知症関係の情報などの話も聞いている。また、ホームの行事案内や事故報告なども行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	今年は、家族の集いを実現し、利用者家族とホーム管理者とで、話し合いを行うことができた。また、入居者が外部の人々と関わる際のプライバシー保護について、家族アンケートで確認するなどしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの運営方針に地域の保健・医療・福祉サービスとの連携を謳っている。日本赤十字をはじめ、さまざまなボランティアの人々がホームを訪れ、折り紙やお話し等のレクリエーションを行っている。地域の行事や公民館の活動などにも、可能な限り参加している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	親切、思いやりの精神をもって、常に入居者の立場になり、それぞれの能力を十分活かせるように生活を支援するという理念を作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、日常の中で目に留まりやすいところ掲示されている。職員は機会あるごとに理念を振り返り、ケアに反映するよう意識して取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会、地域行事にできるだけ参加するようにしている。地域の小学校で、子供たちと昔の遊びを通じて交流することもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は真摯に受け止め、改善計画書を作成する。前回評価での主な改善課題とその後の取り組みは、詳細に記録されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、すでに14回を数える。会議では2ヶ月間のホームの状況報告および家族や地域住民からの疑問や意見等を聴取している。意見や疑問については、ホーム職員全員で共有し、検討の上、実行にうつすなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター等、市町村主催の研修会に職員が参加して、情報を得るようにしている。過去に一度、鴨川市職員の職場見学実習の場にホームを提供したこともある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者は月に一度、家族に請求書・領収書・金銭明細書等を送付している。その際、入居者の各担当職員が、近況報告の手紙を書いて同封している。また、入居者個別のアルバムが作られていて、面会時等に家族に見てもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、今年から始まった家族の集い等において、意見聴取を行っている。また意見箱や電話などでも随時意見を受け付けている。寄せられた意見には、検討の上対応を行っている。最近では、廊下に職員の顔写真と名前を掲示するなどを行った。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員が入った際は、周囲の職員が仕事をサポートし、入居者に影響が出ないよう心掛けている。また入退職がある場合は、食事の時などを利用して、入居者に伝えるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、ホーム内での勉強会のほか、外部研修にも参加している。また研修報告書を提出し、ミーティングで全職員に反映している。職員が個人的に外部研修に参加したいという時は、できるだけ希望に沿うよう配慮する。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体病院の認知症センターに近隣のグループホーム管理者や職員が集まり、交流の機会をもっている。過去に2回ほど開催しており、今後も概ね年1回、開催していく予定である。まきの家のヒヤリハット事例をもとに、事故に関する話し合いを行ったこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、出来る限り家族とともに見学に来てもらうようにしている。帰りたいという願望が強い入居者には、家族になるべく面会に来てもらうなどの配慮を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、入居者の自宅での暮らしぶりをしっかりとアセスメントし、入居後も自分らしく生活できるよう支援している。かつては経験豊かな入居者から料理や花の名前など教えられることもあったが、最近は介護度が上がり、職員が介助する割合が多くなってきている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントシートや、職員が入居者との関わりから得た情報をもとに、入居者の意向に沿った生活が実現できるよう、配慮している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者一人ひとりの生活状況や意向はモニタリング会議で報告され、職員間で情報共有している。話し合いの結果は介護計画にも反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリング会議を定期的に関き、介護計画を評価・修正している。入居者の状況に変化があった場合はその都度、ミーティングを開いて対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体である医療法人明星会 東条病院が隣接しており、医療面でのバックアップ体制は万全である。夜間急変時には医師がホームに来てくれるほか、日常的に医療行為が必要な場合でも原則的にホーム入居が可能である。ターミナルケア、ホームでの看取りも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者それぞれのかかりつけ医や、専門医の受診等、支援を行っている。また隣接する母体病院から夜間でも往診してもらうことができる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まずは家族にホームのターミナルケア方針を説明し、看取りを希望する場合は、家族にも協力してもらう旨、了承してもらう。その後、ターミナルの時期がきたら、随時家族と話し合いを行いながらケアを進めていく。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報や記録は、しっかりと保管・管理されている。入居者の尊厳やプライバシー保護についても注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望する生活ができるよう、職員の配慮やチームワークで対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族的な雰囲気の中で準備や食事、片付けをしている。食洗器を導入し、より一層の衛生保持に努めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かしている。1日数名ずつ順番に入浴しており、入居者全員が週に3回程度、入浴の機会がある。失禁時等は随時シャワーや入浴をする。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の趣味やお気に入りの場所の把握、安全への配慮をし、家事等へ参加しやすいように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ここ最近では入居者の介護度が上がってきたこともあり、全員揃っての外出の機会は減ってきている。しかし個々の希望に合わせ、買い物、釣堀で釣り、散歩などの支援は行っている。2～3人の入居者と職員で、ドライブにでかけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の状況によって玄関に鍵をかけることもあるが、基本的には入居者の行動把握やセンサーの活用、職員間の声掛けなどで、開錠しておくようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は母体の東条病院が中心となり、年に数回、法人全体で行っている。地震のあとに火災発生など、さまざまなシチュエーションを想定して訓練している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節感や彩りなど、食欲を増すように工夫している。また食べやすい大きさや固さなどにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく広く、清潔感がある。窓からは四季の移り変わりが良く見え、居心地の良い雰囲気をかもし出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は日当たりがよく、明るい室内となっている。窓の外は緑が溢れ、馴染みの品やお気に入りのものなどが持ち込まれている。		